

政治思想と環境（『政治思想研究』第23号）〈目次〉

まえがき……………大塚 元 1

【特集】

国民と棄民の間——バンデミック下の統治性……………武田宏子 7
 「国体」と「風景」——近世・近代日本の自己像と環境……………齋藤公太 35
 エペリ・ハウオファと「島嶼海の主権」——太平洋の自然を守護し、歴史を叙述する……………馬路智仁／古田拓也 58
 人新世の正義論——なぜ将来世代を配慮するのか……………田中将人 88
 魚のまなざす海——多種間の政治と人間であること……………福永真弓 118

【公募論文】

フランスにおけるアーレントの受容——全体主義論をめぐるアロン、ルフォール、タッサンの解釈を中心に……………和田昌也 144
 デモクラシーと自律……………小林卓人 169

【政治思想学会研究奨励賞受賞論文】

ジャン・ボダンの主権論とその理論的基礎……………秋元真吾 202
 ギリシアへの陶醉——ジョージ・グロートとジョン・スチュアート・ミルのアテナイの民主政論……………村田 陽 236
 福音派による「建国の父祖」の政治的利用——フランシス・シェーファーの世俗主義批判……………相川裕亮 268

一九六〇年代カナダにおけるチャールズ・テイラー——「承認の政治」の源流としての「左派ナシヨナリズム」

現代資本主義における正統化の問題——ハーバーマスによる資本主義の危機分析を再考する

歴史的不正義論における権原理論アプローチとその問題

性的マイノリティは政治的に代表されるのか——構築主義的代表の枠組みから

「政治哲学としての社会契約説」の誕生——南原繁・バーリン・論理実証主義の狭間で

高橋侑生
成田大起
辻 悠佑
大場優志
田淵舜也

【書評】

ホッブズの思想形成における人文主義

〔助言者〕ホッブズの政治学〔上田悠久〕

カール・シュミットは自由主義的均衡モデルの信奉者だったか？

〔カール・シュミットと国家学の黄昏〕（長野晃）

説得と抑制の政治思想

『ビリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ——福音伝道者の政治性』（相川裕亮）

人権を哲学する

『人権の哲学——基底的価値の探究と現代世界』（木山幸輔）

デモクラシーは終わらない——自壊からの脱出

『資本主義・デモクラシー・エコロジー——危機の時代の「突破口」を求めて』（千葉眞）

ケアの倫理と政治学の結節点としてのトロントの新しい民主主義論

『ケアするのは誰か？——新しい民主主義のかたちへ』（ジョン・C・トロント著、岡野八代訳・著）

思想家の思想と行動

川添美央子
権左武志
井上弘貴
宇佐美誠
山崎 望
鈴木知花
森 達也

456
458
460
462
464
466
468

誤読のもたらす豊饒の思想史……………住田孝太郎 470

『トクヴィルと明治思想史——〈デモクラシー〉の発見と忘却』(柳愛林)

よみがえる「論勢」……………島田英明 472

『天下の大勢』の政治思想史——頼山陽から丸山眞男への航跡』(濱野靖一郎)

【二〇二二年度学会研究大会報告】

二〇二二年度研究大会企画について……………企画委員長 早川 誠 474

【シンポジウムⅠ】パンデミックと政治……………司会 木部尚志 476

【シンポジウムⅡ】環境と自己像……………司会 川添美央子 478

【シンポジウムⅢ】人新世の政治思想に向けて……………司会 井上 彰 480

【国際シンポジウム】……………司会 松田宏一郎 482

〔自由論題 第1会場〕……………司会 大澤 麦 484

〔自由論題 第2会場〕……………司会 山岡龍一 485

〔自由論題 第3会場〕……………司会 鍋木政彦 486

〔自由論題 第4会場〕……………司会 萩原能久 487

執筆者紹介……………488

政治思想学会規約……………492

論文公募のお知らせ……………493

政治思想学会研究奨励賞……………494

執筆要領……………

二〇二二—二〇二三年度理事および監事……………

497 495